



# ラーチャブルック ร่ำพญานกข

※「ラーチャブルック」はタイを代表する花、ゴールデンシャワーをタイ語で表現したものです。

令和4年度  
第4号

<https://www.tjasac.th>  
小学部第1職員室  
02-314-7334  
小学部第2職員室  
02-369-2751  
小学部第3職員室  
02-369-2750  
中学部職員室  
02-314-7335

校長 谷口 幸一郎

## ボランティア募集

「ボランティア募集です。」先月、ある朝、6年生の廊下を通りかかった時、数人の子供が周りの同級生に声を掛けていました。「何のボランティアなの？」と尋ねると、「自分たちであいさつの声掛けをしようと思っています。」「いいね、自分たちで考えたのだから、是非、広めていってください。」ここからスタートしたボランティア活動でしたが、今は小学部のいたるところにボランティアの子供たちが立って、みんなに声掛けをしています。3年ぶりに1学期のスタートが切れた子供たち。朝のあいさつでさわやかに学校がスタートしています。



また、この**ボランティア募集を全校朝会で6年生が行っていました**。朝のあいさつ運動の他にボランティア仲間をたくさん作ろうとしているようです。次にどんなボランティアを行うのか、楽しみとともに期待したいです。

## 初めての生徒総会

中学部の生徒総会が3年ぶりに行われました。**学級と生徒会本部をミートでつないでの開催**でした。はじめに議



長団の登壇とあいさつ、次に専門委員長、生徒会役員から活動計画の発表(中学部の専門部会は全部で6つ、生活、広報、図書、体育、保健、環境でそれに生徒会本部)、質疑応答、承認という順で流れていきました。本部役員の様子を見ていましたが、とても緊張している様子で、発表原稿を何度

度も読み返していました。今の中学生は誰一人として、全員が一同に会しての総会を知りません。その中で、各学年や学級からの意見が言えるように工夫した生徒総会を開催できました。写真は終わった後の充実感でいっぱいの本部役員たちです。

## 環境が人を作る

「**痛一が(いてえーが)ばか**」、40年間の教員生活の中で私が初めて言われた言葉です。廊下を歩いている時に私の横をすり抜けて前に出ようとした子供がいました。その時に私の手がこの子供の体に当たってしまいました。自分から当たっておいて、この言いぐさです。本当にびっくりしました。私も中学校でそれなりに生徒指導上、難しい子供たちと接してきました。しかし、彼らからこのような言葉を言われたことはありませんでした。その場で叱りつけようとも思いましたが、低学年でしたので、しばらく様子を見ておくことにしています。

ここで考えてほしいのは、この子供がとっさに口にした言葉、普段から使い慣れていないと出てこない言葉です。学校なのか、家庭なのか、他の環境なのか、子供に**こういう言葉を発せさせた環境に原因がある**と思います。相手のことを少しでも思いやる気持ちが大切であることをこの子に気付かせてあげる機会がなかったのだと思います。



家庭でもこのことを少し話題にしてみてください。自分のお子さんはどう考えるでしょうか。**頭で分かっているけど行動が伴わないことはよくあることです。**

残念ながらありますが、本年度は、**昨年度よりもとても多くのバストラブル（バスでのトラブル）が起こっています。**本来、培わなければならなかった社会性が備わっていないことが原因と思われます。授業中にも人の話を聞かない、聞けない、自分のことだけを言いたがる、活動時間のルールを守らない（マイペース）など、多くの課題が担任から挙がってきています。学校としては基本、考えさせ、気付かせたいと思っていますが、なかなか聞かない子供もいるようですので、指導もしていきます。各家庭においても、**躰なければならぬところは厳しくしつけてください。**「よいところを褒めて育てる」といいますが、これは当たり前のことができたからといって「褒める」のではありません。何でも褒めていたら子供は決して育ちません。**たまに褒められるから、子供は伸びようとするのです。**

この3年間で、幼稚園や学校そして習い事等に行けなかった影響が子供たちに出ている気がします。（大人もそうかもしれません。）もう一度、社会にはルールがあることを再認識してほしいと思います。

## 新スポーツテスト

先日、中学生に対して新スポーツテストを実施しました。保護者の皆さんも小学生や中学生の時に経験があるのではないのでしょうか。今回、行った種目は「**握力、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び、上体起こし、20Mシャトルラン、ハンドボール投げ、50M走**」の**8種目**になります。ちょうど授業の様子を見ている時だったので、



体育部の先生に「見本を見せてください。」と言われ、私もハンドボールを投げてみました。気持ちは30M、結果は17M。少しがっかりしましたが、子供たちの歓声に元気をもらいました。改めて体力が落ちていることを実感できました。気持ちはできると思っているけど実際にやってみるととても大変です。保護者の皆さんも時には広い公園に出かけられて、子供たちと一緒にいくつかの種目にチャレンジしてみてください。

## 水泳が始まりました

水泳学習が2年ぶりに体育の時間に行えています。**本校のプールは縦50メートル**もあるとても大きなものです。もちろん小学生は浅いところで授業を行います。中学生はプール全体を使って泳ぎの練習をします。

先生たちも、水泳授業の前の準備として、救急救命の練習（AEDの使い方）やプール塩素濃度、水温などのチェック法を研修しました。そして水泳授業をスタートさせる時に、水泳授業の子供たち用動画と教師用動画を作成し、**安全面での意識を高めました。**



日本は周りを海で囲まれた国ということもあり、日本人は昔から泳ぐ機会に恵まれていたのではないのでしょうか。オリンピックにおいても水泳は日本のお家芸としてメダルを期待できるスポーツです。私も以前、水泳を指導していたことがあり、その時に感じたことは、特に小学生は水泳をすればするほど上達するということです。水に慣れ親しむことが大切です。もちろん、競泳ではそのスピードと体力が求められますが、通常の水泳は生涯スポーツとして、泳法にとらわれず、まずは泳げるようになることが重要です。特に低学年の子供たちには**しっかりと泳げるようになってほしい**ものです。

